

取組名称	里山再生「我田の森」プロジェクト			団体設立後の経過年数	24年目
応募取組主体名称	里山クラブ可児	活動地域	岐阜県可児市久々利地区	応募取組の活動年数	22年目
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への思いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

里山の荒廃した環境を守るため、2000年4月「里山クラブ可児」が発足。2002年4月「我田の森（面積約13ヘクタール）」を拠点としました。当時の我田の森は、久々利我田集落13名の共有財産区と個人地権者が入りまざった土地で、手入れが行き届いていない状況だった。この地を里山保全活動地として、地権者等と協定を締結。以降、里山再生、整備・保全活動を楽しみながら、着実にやっている。

実績の要旨

再生した田んぼを活用し、可児市民親子を対象に、里山自然体験教育として、田植え体験、稲刈り体験、餅つき体験等、年間5回のイベントを継続して開催している。年間延べ入山数は3,000人以上である。
2008年、名城大学都市情報学部で里山保全活動実践授業として毎年学生が自然保護活動を体験している。
2013年、我田の森が「岐阜県環境保全モデル林」第2号に選定された。
2016年、森のようちえん「こどもの庭」の拠点の一つとして活動をしている。年間延千名以上子育てを行っている。

取組評価の要旨	環境への貢献	年間を通じた里地里山整備により健全な里山環境が維持されている。田んぼビオトープによる米作り、ビオトープ池等での貴重種保全等による生物多様性の維持にとりくんでいる
	社会・経済への貢献	可児市の定める里山の日を市内の環境保全団体共催で、市民への恋網普及活動を行っている。里山クラブ可児も第1回より参画している
	地域資源の活用	放逐された棚田を田んぼビオトープとして再生し、不耕起、無農薬による日本古来の稲作を行い、環境体験学習の場としても提供している
	普及・汎用性	Web、SNS、YouTubeにおいて、岐阜県の環境保全モデル林における成功事例として活動を積極的に情報発信している
	革新・ユニーク性	社会的課題とされている不登校問題について、支援団体と連携し我田の森での活動を支援している
	継続性	2000年から活動を開始、以降会員は入れ替わりながらも繋いで24年に渡り継続した活動を継続している

展望の要旨

ボランティア活動としては、高齢化が課題であったが、最近では幅広い年代の女性会員も増えている。自然環境での癒しを求める層に活動を繋ぎたい